

令和4年12月

魚津市定例記者会見



日時：令和4年12月1日(木) 午後1時30分～午後2時20分

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、NHK、NICE-TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、総務部長、財政課長、情報広報課長

1. 市長からの発表事項

(1) 12月市議会定例会に提案する補正予算の主な内容

- ・12月補正予算のポイントは、①物価高騰対策、②電気料金等高騰への対応、③コロナ対策、④人件費を含むその他の補正の4つとなる。①物価高騰対策は3,900万円余りで、その大部分は農業資材・燃料価格高騰対策支援。②電気料金等高騰への対応は5,900万円余りで、市直営の施設と指定管理者制度導入施設の経費の上昇分をカバーするもの。③コロナ対策は1,300万円余り、小・中学校感染症対策を盛り込んでいる。④人件費を含むその他の補正は5億円余り。内訳は、人勤に伴う人件費補正が1億円余り。ふるさと寄附の増額分は、当初4億円を見込んでいたものを6億円へ2億円増額もの。そのほか、県議会議員選挙事務費や後で説明する産後パパ育休促進事業、公共交通対策事業、統合に伴う旧上中島小学校の解体などが含まれる。
- ・今年度のこれまでの新型コロナウイルス感染症対策・物価高騰対策を整理すると、当初予算ではコロナ対策に2億2,000万円ほど。内訳はワクチン接種や魚旅キャンペーンが中心。6月補正では物価高騰対策として、住民税非課税世帯への支援給付金や魚津市独自の子育て世帯への1万円分のミラペイの支給など。9月補正はコロナ対策としては子どもインフルエンザ予防接種助成事業や魚旅キャンペーンの追加分など。物価高騰対策としては福祉施設や病院、学校などへの支援を行った。その後の9月補正の追加分（3億6,000万円）では、1世帯5万円の緊急支援給付金（約3,700世帯）や上水道基本料金の4カ月分減免、省エネ家電への買い替え促進、大学生等への支援などを順次実施した。

主な事業の説明

- ・農業資材・燃料価格高騰対策支援事業については、資材（肥料・農薬・飼料など）や燃油価格の高騰が長期化し、農業経営において大きな負担となっていることから価格高騰分の一部を支援するもの。対象者は魚津市内で出荷を目的として農業生産を行っている生産者。農作物ごとに支援単価を設定し支援していく。稲などの穀類のほか、魚津の特色ある果樹、出荷頭数の多い豚などが主な支援対象となっている。
- ・林業燃料価格高騰対策支援事業については、森林の施業で使用される軽油の価格が高騰していることから、令和4年1～10月に使用した軽油の高騰額分の4分の3を支援するもの。R3.4.1の富山県公表価格135.0円/Lを基準価格、R4.3.15の富山県公表価格159.0円/Lを現在価格とし、その差額24.0円/Lの4分の3に当たる18円/Lを支援する。
- ・産後パパ育休促進事業については、令和4年10月1日から「産後パパ育休」制度が施行されているが、男性が育児や家事を行う意識の醸成を図り、育児休業を取得しやすい環境や子供を産み育てやすい環境づくりにつなげていくため、一定期間以上の育休を取得した男性従業員及び男性育休取得者を雇用する事業主に対して、補助金を交付するもの。対象者は令和4年10月1日以降に育児休業を取得した市内在住の男性従業員および育児休業を取得した男性従業員を雇用する市内事業所の事業主。大企業は14日以上、中小企業は5日以上の子育休を取得すること、事業主が対象者の場合は「イクボス企業同盟とやま」や「元気とやま！子育て応援企業」等に登録している事業所であることが補助の条件。補助金額は取得者本人が5万円、事業主も5万円。今後のスケジュールは年明けの令和5年1月に制度の周知を行い、2月から受付・交付を開始したい。
- ・公共交通対策事業（地鉄バス運行支援及び市民バスへの移行経費）については、路線廃止の意向が伝えられた地鉄バスの市内2路線（東蔵線、黒沢・大沢線）について、令和4年度分の運行経費に対して支援を行い、また令和5年4月からの市民バスでの運行開始を目標に、停留所看板等を整備するもの。地鉄バスの運行支援については1,900万円ほどを見込んでいる。2路線の令和4年度の運行経費から、収入見込額（運賃・営業外収入等）及び国県補助金見込額を差し引いた額（赤字額）を市で補填する。市民バスへの移行経費については320万円ほどを見込んでいる。停留所看板の購入及び修繕費として使うほか、運行ルートの見直しも検討している。中学校・高校への通学、買い物、病院への通院などのニーズに応え、移行を機に利便性の向上も目指したい。

- ・学校規模適正化事業（旧上中島小学校解体）については、これまで旧上中島小学校校舎の利用法の検討を進めてきたが、老朽化が進む中でこのまま使うことが難しくなっているため、将来的に地区公民館の駐車場として活用したいという地域の要望に応え、校舎及びプールを解体するもの。解体施設の概要は、校舎：約2,000㎡とプール：約800㎡。事業費は1億5,000万円弱で国の補助金も活用しながら今年度に解体する。地域コミュニティの中核拠点の一部としてしっかり環境整備していきたい。

(2) 魚津市民意識調査の結果を公表します

- ・令和2年度以来2年ぶりに魚津市民意識調査を実施したので、その結果の概要について説明する。調査では、市が現在取り組んでいる施策に対する評価のほか、2つの特別テーマ「広報・広聴」と「デジタル化」を設け、集中的にアンケートを実施した。アンケートの実施方法についても従来の抽出調査だけでなく、市ホームページやLINE公式アカウントからインターネットを使って回答できるインターネット調査も実施し、従来の調査では掴みきれなかった市民の意識も把握できたと思っている。
- ・抽出調査については標本数が1,000人で、回答方法は郵送による返送またはインターネットを用いての回答となっており、回収できたのは412件となった。インターネット調査については、標本数は特に限定せずに18歳以上の方なら誰でもスマートフォンやパソコンから回答できるようになっており、回答数は582件となった。

令和4年度 魚津市市民意識調査 集計結果（概要版）を使っての説明

- ・【5頁】問2. あなたは、これからもずっと魚津市に住み続けたいと思いますか。については、年齢が高くなるほどこれからも魚津市に住み続けたい人の割合が高いという結果となった。
- ・【6頁】問3. 魚津市に住み続けたいというのは、どのような理由からですか。については、年齢が高くなるほど「生まれ育った場所だから」、「愛着がある」、「住宅を持っているから」という理由が多くなっており、若年層では、「親の近くに居たいから」という理由が目立った。インターネット調査では「通勤・通学のため」という回答が抽出調査より多かった。
- ・【8頁】市の施策などに対する評価についてお答えください。については、「市からの情報発信の充実」や「上下水道の安定的な供給・運営」、「市民バスなど公共交通網の整備」に比較的高い評価がついた。しかし、「企業誘致や工業・商業の振興」や「中心市街地のにぎわいの創出」、「若者や女性が住みたくなるまちづくり」には厳しい評価が多く、これから力を入れていく必要性を感じた。なお、抽出調査もインターネット調査もほぼ同様の傾向となっている。

- ・【9頁】問34. 今後、特に魚津市が力を入れるべき施策は。 については、「若者や女性が住みたくなるまちづくり」や「結婚・妊娠・出産に関する施策の充実」、「子育て支援に対する取組」に力を入れるべきという意見が多かった。
- ・【11頁】特別テーマ「広報・広聴」の問38. あなたは、市の情報を次のいずれから取得していますか。 については、すべての年齢層で「広報うおづ」の割合が高くなっていて、高齢層では「町内会回覧板」や「新聞」も高かったが、インターネット調査では「市公式LINE」も同じくらい高いという結果が出た。
- ・【12頁】問40. 市政情報のうち、どのような情報を知りたいですか。 についてはごみ・各種申請・税金などの「生活情報」、医療・介護・検診などの「健康福祉情報」、「イベント情報」にニーズがあるという結果となった。
- ・【15頁】特別テーマ「デジタル化」の問48. あなたがお使いになっている（保有している）情報通信機器はどれですか。 については、スマートフォンが圧倒的に多くなっていた。問49. あなたが情報通信機器でよく利用している機能はどれですか。 については、インターネットの閲覧が多く、インターネット調査の結果についてはキャッシュレス決済も多かった。
- ・【16頁】問50. あなたはマイナンバーカードを持っていますか。持っていない場合、あなたがマイナンバーカードを申請しない理由は何ですか。 については、マイナンバーカードを持っている人の割合が全体で60%と比較的高くなっている。しかし、これは調査に回答された方の中での割合であり、魚津市のカード申請率は現在県内15位で最下位である。そして、申請しない理由の中では「個人情報に関する不安があるから申請しない」が一番多くなっており、市の説明や情報の伝え方に改善の余地があるのかと考えさせられた。また、問51. インターネット（スマートフォンやマイナンバーカードを利用して）からできることを知っていましたか。 についても「住民票などをコンビニで取得できる」の次に「どれも知らなかった」が多くなっており、しっかり伝えていくことが大事であると感じた。
- ・【18頁】問54. 今後デジタル技術について習得したいと思っているものはありますか。 については、「特に無い」が一番多くなっていて、興味深かった。問55. 今後デジタル化が進む中で不安はありますか。 については「使いこなせる人とそうでない人との格差」「個人情報の漏洩」「ネットワーク犯罪」が多くなっており、今後これらを念頭に置いて（施策を）考えていく必要があると感じた。
- ・【19頁】問56. 魚津市電子地域通貨「MiraPay(ミラペイ)」を利用したことはありますか。 については、「使ったことが無い」方がまだ半分もおられるため、普及に力を入れる必要があると感じた。

(3) 12月18日(日)に2つのイベントを埋没林博物館で同時開催します

- ・U0! SPO in ねっこランド e スポーツフェスタ2022は、魚津埋没林博物館 2階ハイビジョンホールで開催する e スポーツ大会。ハイビジョンホールのシアターを活用した大迫力の中で「ぷよぷよ e スポーツ」と「カニノケンカ」の2種類の大会を行う。
- ・魚津ドローンプログラミングチャレンジ2022は、ドローンのコントローラを事前にプログラミングして、埋没林博物館内に設定されたミラージュランドをイメージしたコースを周回し、ゴールを目指す大会。大会参加希望者は9月から事前講習会に参加して準備している。

(4) 働き方改革・女性活躍推進シンポジウムの開催について

- ・12月21日(水)に午後に新川文化ホールの小ホールで開催する。主催は魚津市で後援は富山労働局と富山県。基調講演は東京大学国際オープンイノベーション機構プロジェクトマネージャーの永合由美子氏にお願いする。その他、富山労働局と富山県から女性の活躍に関する制度を紹介してもらう。パネルディスカッションは永合氏、(株)東城の吉田社長、浜守富山総連合会長、魚津市長の4名が参加する。

(5) みらパーク Happy Christmas サンタ★ウォークラリー&マルシェを開催します

- ・12月3日(土)の10:00から15:00まで魚津総合公園内のみらパークで開催する。サンタ★ウォークラリーでは、サンタ等の衣装を着て、みらパーク内のチェックポイントを回ってポイントを獲得すると賞品をもらうことができる。なお、クリスマスにちなんだ赤い服装での参加者には、スペシャルポイントが進呈される。受付会場は「みんなのみなど」、参加費は1人500円。
- ・クリスマスチャリティーフリーマーケットも同時開催される。主催はNAPs、共催は魚津市とミラージュランド、協力団体は魚津市社会福祉協議会・魚津あったか食堂・魚津水族館、特別協賛として明治安田生命保険相互会社から応援をいただく。

- (6) 「2022イルミラージュUOZU」の開催について（一部変更）
- ・明日12月2日（金）に点灯式を予定していたが環境が整わなかったため、当日は当初予定していたイルミネーションのうち「ミラマルシェ」「魚津駅前ロータリー緑地帯」「魚津駅看板アーケードイルミネーション」のみの点灯へ変更することとなった。「魚津駅前ロータリー樹木(9本)」と「ミラマルシェ隣うまい水エリア樹木」のイルミネーションについては点灯時期は未定となっている。
 - ・点灯式では魚津第二こども園年長児によるハンドベル演奏、点灯式後には駅前アーケードで「カニと新酒のふるまい」が予定されている。
 - ・協賛をいただいた企業数は11月30日時点で200社となっていて、昨年の146社と比べ増加している。
- (7) ありそドームキッズベースがリニューアルオープンします
- ・ありそドームキッズベースの改修工事が完了し、リニューアルオープンする。オープン日時は12月1日（木）の17:00から。改修内容はスペース拡張、床マットの更新、ボルダリング遊具の設置。これまでは小さい乳児と少し大きい幼児が同じスペースで遊んでいることによる安全面の不安や遊具の老朽化など問題があった。キッズベースを拡張し年代（乳児、幼児）に応じたエリア分けを行い、新たな遊具も設置して多くの子ども連れが楽しめる憩いの場を創出した。
- (8) 魚津の農林水産業体験・応援プロジェクト 12月に開催する「親子体験会」はこちら
- ・12月は、冬の特別バージョンとして、海・山・里のめぐみ（特産物）をまるごと体験できる「冬の特別体験会」を開催する。日時は12月17日（土）の9:30から15:30頃まで、会場は片貝コミュニティセンター「毛勝の郷シェルピース」。魚津産木材を用いた「マイ箸づくり」、魚津漁港で水揚げされた魚を用いた「すり身づくり」、魚津産のもち米を用いた「もちつき」と「丸もちづくり」、魚津産木材を用いた「正月かざりづくり」、魚津産りんごを用いた「ロールケーキづくり」を一度に体験できる盛りだくさんの内容となっている。19家族44名（大人20名、小学生24名）が参加予定。

(9) 25～27歳の成人式を開催します

- ・昨年度は25歳の方のみが対象であった。それ以前も事業を予定していたが、コロナで開催できなかったため、今回は一挙に3つの学年を対象に開催する。日時は12月29日(木)の夕方、場所はスカイホテル魚津、参加対象者は令和4年度に25歳・26歳・27歳になる市内の小中学校を卒業した方、主催は魚津市25～27歳の成人式実行委員会。参加者が親睦を深めるためのチーム対抗ゲーム、歌謡ショー・マジックショーの余興やビンゴゲーム、そのほか自由な歓談タイムなどが予定されており、参加者がふるさとを確かめ合う時間にしてほしい。

2. 質疑応答の内容

「産後パパ育休促進事業」について

《記者からの質問》

従業員の住所と事業所の所在地が、市内の場合・市外の場合の各ケースについて、補助の該当となるか教えてほしい。

《回答》(市長)

育児休業を取得した従業員が市内在住の場合は、事業所が市内でも市外でも「従業員」に補助金が交付される。

市内にある事業所の従業員が育児休業を取得した場合は、従業員の住所地が市内でも市外でも、育児休業を取得した従業員の人数分だけ「事業所」に補助金が交付される。

「農業資材・燃料価格高騰対策支援事業」について

《記者からの質問》

農作物ごとに設定された支援単価に大きな差があるが、どのような基準で決めているのか。

《回答》(市長)

担当課で各種統計を参考にしながら物価上昇相当額を算出し、農協の協力を受けながら支援単価を算出した。魚津市の支援単価の特徴としては、その種類が多い市内で作付けされている果樹について、梨やリンゴなどの種別ごとに異なる単価を設定している点である。

「市民意識調査の集計結果」について

《記者からの質問》

「若者や女性が住みたくなるまちづくり」の施策の評価が低いが、そのことについてどう思うか。また、交通安全や防災に対する取り組みが若い人から評価されているという結果が出ているが、その理由は何か？

《回答》（市長）

各施策を評価してもらう設問については、その設問の自由記載欄に具体的な意見がかかっているが、それらも整理して市ホームページで公開しているので参考にしてほしい。都市部と比べて「若い人の遊べる場所が少ない」「街に魅力がない」という意見が伝わってくる。期待に応えられるようがんばりたい。新年度予算で重点的に取り組んでいることを示したい。

交通安全や防災に対する取り組みが若い人から評価されている理由についてはわからない。（全国に報道されるような）大きな事故や災害が魚津市で発生していないからかもしれない。

「25～27歳の成人式」について

《記者からの質問》

今回は3つの年齢（25・26・27歳）の方が出席可能だが、例えば25歳の方は来年・再来年も出席することが可能なのか？

《回答》（市長）

今回に関しては、コロナ禍により実施できなかった年齢の人にも参加してもらうとの意図で企画したため、来年も同じような条件で実施するかは今の時点ではわからないとしか言えない。

「富山県内警察署再編に伴う統合庁舎（新川東エリア）の建設地」について

《記者からの質問》

4つの候補地（魚津市、黒部市2か所、入善町）についてどう思うか。

《回答》（市長）

魚津市の候補地のメリットとしては、国道8号線と北陸自動車道のインターチェンジの両方に近いこと、候補地が現在市有地であること、（夜間の賑わいが近隣で最もあるため）出動件数が多いところに近い方が合理的であるということ。これらの事を市から県（県警）にアピールしている。